

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

さて、ご案内のように、景気動向を示す指標は景気の好循環を示してきています。ただ、今私たちが取り組むべきことは、表向きの様々な指標に一喜一憂するのではなく、底堅い地域経済の根っこをしっかりと育てるための地道な努力だと思います。

人口減、少子化、高齢化など社会構造が大きく様変わりし、世界的な気候変動などの環境制約がますます大きくなるなど、私たちの商売を巡る環境は大きく変わってきています。そんな中、今までなかったようなことが動き始めています。例えば、「環境」と「経済」のように今までは対立すると考えられていたことが一体化することで、ビジネスチャンスが生まれ始めたり（国連で採択された持続可能な開発目標、いわゆるSDGsもそのひとつです）、必ずしも所有にこだわらないシェアリングエコノミーという考え方が広まったりと、新しい商売の形を通じて、新しい経済のあり方を考えることが求められているのだろうと思います。

そのような大きな変化の真ただ中ではありますが、いずれにしても、地域を元気にするには、経済の活性化が必要です。地域の暮らしを下支えする地域経済の担い手である3,300の会員企業の皆さまの経営の安定化と活発化を使命とする、わが小田原箱根商工会議所の役割は、ますます大きいと改めて感じております。

そんな中、私たちの商売を巡る環境を見ると、規模の拡大、例えば、単に品揃えを増やし、店の数を増やせば、売り上げが上がる時代ではなくなっていました。大きいことが必ずしも有利とは限らない時代です。

そこで、経済を活性化するために目指すべきは、地域でお金を廻すこと。地域で廻るお金を増やすこと、そして廻るスピードを上げること、だと思います。いわゆる「地域経済の循環」であります。今年もそれをキーワードに、事業を展開してまいります。「議論して行動して 結果を問う」姿勢で邁進してまいります。

その活動の柱は大きく2つです。

1. 個々の会員企業の経営支援

商工会議所の活動の目的の一丁目一番地は会員企業の商売繁盛です。そのための商工会議所の最大かつ最重要な責務は、そのお手伝いです。雇用や生産性改善などいろいろな補助金があります。相続税関連の新しい税制も出てきます。各種相談、専門家派遣、セミナーの開催等、会員企業の皆さま方の経営支援に当所を挙げて取り組んでおります。会員の皆さまにとって、もっと分かりやすく使いやすくなるように引き続き改善を図ってまいります。

2. 商売をする環境をよくすること、つまり「まちづくり」です。

これには、3つの視点が必要かと思います。

1) 住む人を増やす（定住人口増）

わが国の人口が減っていく中で、手をこまねいていると人口が流出してしまいます。小田

原、箱根をより住んでみたいまちにするための具体的政策が必要です。そのためには、土地利用関連の規制の見直し、地域防災や再生可能エネルギーの地産地消、イオンのような大規模工場跡地の有効利用など、小田原・箱根の優位性を活かし、取り組んでいきます。

2) 働く人を増やす

雇用、働く人の確保は、企業の大小問わず、大きな課題です。行政との連携も必要です。同じく働く人を増やすためには、ここ小田原箱根で商売を始める人を増やす必要もあります。4年目を迎え、確実に成果を上げている創業支援（創業塾とビジネスプランコンテストなど）はさらにバージョンアップします。4月には第三回目の合同入社式を開催し、小田原箱根で働く人たちの支援をします。

3) 訪れる人を増やす（交流人口増）

この地域の観光の課題を提言という形でまとめ発表した「小田原・箱根の観光ビジョン」については当所のタスクフォースで、そして、それから派生した「平成の城下町・宿場町構想」についても、官民での研究会が立ち上がり、5つの分科会の場で活発な議論が始まっています。

もうひとつの会議所の大事な責務は、定款にも明記されているように、行政等への意見具申と建議であります。まちづくりの推進と併せて、会員の皆さまが当所に期待している2大課題のひとつでもありますことを心して、今後とも、発信力を高め、積極的に要望、提言をしてまいります。会員の皆さまからのご意見をお待ちしております。

さて、少々青臭く聞こえるかも知れませんが、結びに一言添えさせていただきます。

昨年を一言で表すと、「分断」と「排除」の兆しの一年だったと言えるのではないかと思います。年初のアメリカ大統領の就任から「何とかファースト」とかが流行り、とにかく自分たちさえ良ければという考えが前面に打ち出され、結果として、わが国のみならず、世界中で、格差や不安が広がる社会が広がっているようです。気候変動のことをみても、地球のどこか見えないところで起こっていることが、確実に自分の日々の生活に影響を及ぼしています。好む好まざるに拘わらず、すべてはつながっているとすれば、意見や立場の違いを超えて、何とか折り合いをつける知恵が求められているのではないのでしょうか？ いわば、「融合」と「包み込み」だと思います。自分を、自分の会社を、自分のまちを、そして自分の会社を一番大切にするのは、当たり前だと思うのです。だからこそ、忘れてはならないことは、自分の隣の人も同じように自分が大切と思っているということだと思うのです。経済とは、単なるお金のやりとりとその周辺の出来事だけを指すのではなく、本来は「経世済民」。世を治め、民を救う、つまり、世の中をよくしていくためのしくみであるはずで、地域の経済活動を進めることで、今年は「融合」と「包み込み」の始まりの年にしたいと思うばかりです。

では、会員の皆さまの商売繁盛と、ご健勝をお祈りいたし、年頭のごあいさつといたします。

会頭 鈴木悌介